

事業の概要について

策定の背景と目的

【背景】

近年、少子化や人口減少、核家族化、女性の社会進出による共働き世帯の増加、地域コミュニティ意識の希薄化など、こどもと子育て世帯を取り巻く社会環境が大きく変化しています。こうした変化によって、保護者同士やこども同士の交流機会が減り、育児への孤立感・不安感・ストレスの増加など、家庭における子育てには新たな課題が生じています。

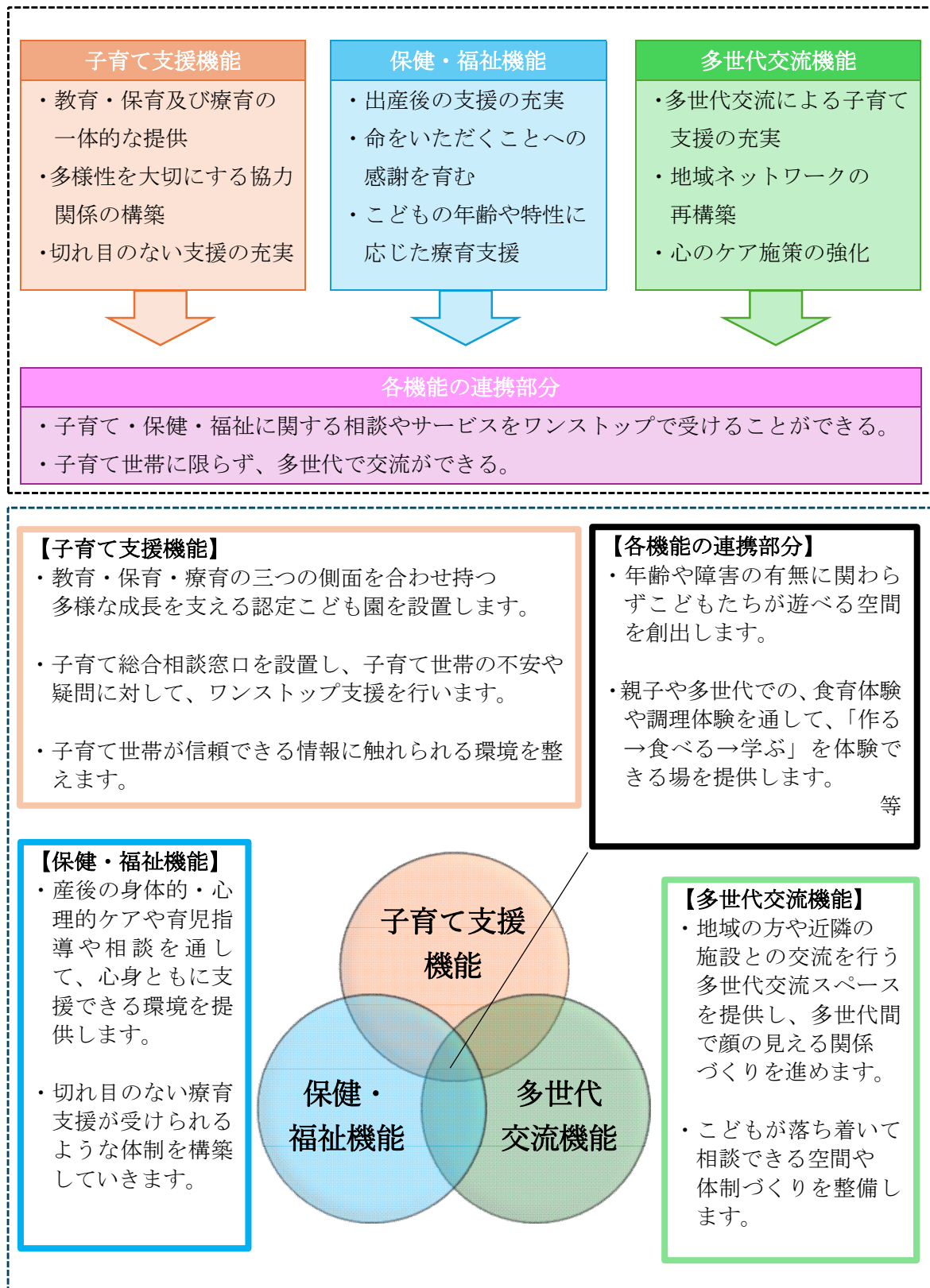
また、家族形態や働き方が多様化する中で、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援や総合的な相談・サービスを求める声がより強くなっています。

こうした多様化・複雑化した子育てニーズに応え、こども・若者・保護者をまんやかに据えた包括的なサポート体制や誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組が、今後ますます重要となってきます。本市においても「“For Kids” プラン 2025」を策定し、妊娠期からの途切れない支援や子育て世帯のサポート体制、地域ネットワークの強化などに取り組んでいます。また、「第3次総合計画」では、「可能性を築くまち」をまちづくりの基本理念に掲げ、世代を問わず誰もが安心して暮らせる地域社会の実現と、子育て環境の充実を主要な課題の一つとしています。

【目的】

こうした状況を踏まえ、本市では、老朽化が進行する幼稚園、保育所の統廃合と併せて、子育て分野、保健・福祉分野、多世代交流分野の機能充実及び連携強化を目的とし、子育て支援の拠点となる（仮称）下関市交流型子育て総合支援施設（以下「新施設」という。）の整備に向けた検討を行うこととなりました。全ての子育て世帯やこどもが安心して利用できる身近な相談窓口を設置し、妊娠期から子育て期までの切れ目ない包括的な支援を展開するとともに、「交流・体験・学び」の場を通して世代や家庭を超えたつながりを育み、孤立や不安の軽減、地域全体の子育て力の向上につなげます。「（仮称）下関市交流型子育て総合支援施設整備事業基本構想」は、新施設の整備に関して、確保すべき機能の方向性や基本理念、導入機能等の基本的な考え方を示すものです。

導入機能の連携イメージ



計画敷地の概要

(1) 計画敷地と周辺環境

新施設の計画敷地は、旧下関市立第一幼稚園跡地を活用します。周辺には、下関市社会福祉協議会が運営する「福祉プラザしものせき」が令和7年度から供用開始され、その隣には児童館「ひかり童夢」、さらに下関市立日新中学校、下関市立文関小学校と、公共施設が数多く立地しています。また、古くから地域内の交流が盛んで、旧下関市立第一幼稚園の運動場では多世代が参加する地域の運動会が開催されていました。このようなことから、幼保連携型認定こども園の新設を軸に、多数の公共施設や地域と連携でき、地域との交流を大切に行える施設を整備することが必要と考えています。

